

B- I -11 身体障害者療護施設における人工呼吸器の使用について

北里大学東病院MEセンター部
白井 敦史 瓜生 伸一 菊池 史郎
神奈川県立さがみ緑風園診療所
古澤 英明
北里大学東病院看護部
山田 谷節子

【はじめに】

北里大学東病院MEセンター部では昭和61年の開院以来、病院内および在宅における人工呼吸器の管理を行ってきた。今回我々は身体障害者療護施設における人工呼吸器管理を行う機会を得たので、その現状と問題点について報告する。

【経 緯】

平成15年4月身体障害者療護施設神奈川県立さがみ緑風園の移転に伴い、当施設における学校法人北里学園への医療看護部門業務委託が行われた。移転に際して重度意識障害者やALS患者の利用を可能にするため、機能面においての強化・再整備を行った。現在3名の人工呼吸器装着患者が生活している。

【施設の概要】

施設種別は身体障害者療護施設で、場所は神奈川県相模原市にあり北里大学東病院より300mと徒歩圏内にある。施設機能として入所機能および在宅支援、医療体制、研修機能がある。

【人工呼吸器管理の実際】

業務分担として、看護師は、日常点検および回路交換、人工鼻の交換、移動の付き添いなどを行っている。臨床工学技士は2週間に1回北里大学東病院より訪問し定期点検および回路の消毒、物品の補充、メンテナンスなどを行っている。介護スタッフは、移動介助およびトラブル時の医療スタッフへの通報などを行っており、人工呼吸器にかかわる行為は行っていない。

北里学園が受託してからの3年間で発生した人工呼吸器のトラブルは、人工呼吸器の作動停止が2件、人工呼吸器の作動不良が3件など合計24件だった。

【問題点と課題】

人工呼吸管理では人工呼吸器の患者への取付けや取り外し、吸引、トラブル時の対処など医療行為が絶対必要であるが、現行法では医療職または家族のみしか行うことが出来ず、介護スタッフが中心の施設では大きな問題である。また医学管理料や在宅管理料などの診療報酬が施設ではとれず、行為やマンパワーに見合った報酬がないのも問題のひとつである。

【施設の利点】

施設の利点として、経済的な理由や介護者が高齢などの理由で在宅療養が出来なくても病院を出て生活が可能であること、快適な生活や作業、外出、趣味などを通し、人工呼吸器を装着していても生きがいや希望を見出すことが可能であること、在宅と違い仮にトラブルが発生しても看護師による1次対処が可能であることがあげられる。

【結 語】

今回我々が行っている身体障害者療護施設での人工呼吸器管理について紹介した。医療施設ではない障害者施設などでの人工呼吸器装着患者の受け入れは難しいと思われがちである。しかし、最低限の設備と医療従事者が整っていれば、施設などでの人工呼吸器患者の受け入れは可能と思われる。